

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県

学校名

広島県立向原高等学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

第3学年・国語（国語表現）

目標・人権教育のねらい

- ・自分の思いや考えを明確にし、適切に伝わるよう表現の仕方を工夫するとともに、他者の思いや考えを共感的に受容することができる。

実施した内容

- ・高校生活を振り返り、思い出の場所や思い出に残った理由などを考えながら、思い出の場所を写真に撮り、その場所に対する自分の思いや気持ちを短い言葉で写真に添えて、作品をつくる。

工夫した点

- ・自分の思いを表現する方法として「写真」と「言葉」を取り入れることで、文章だけで表現することに苦手意識を持っている生徒も学習に取り組めるようにした。
- ・作品を図書室に掲示することで、他者の感性や価値に触れることができるようにした。

他教科との
関連

- ・美術

事業成果

- 【価値的・態度的側面】人それぞれに考え方や感じ方に違いがあってよいと感じる生徒の割合が94.5%から95.8%に増加した。
- 【技能的側面】自分の思いや考えを工夫しながら表現することができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県

学校名

広島県立向原高等学校

人権課題

子供, 高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

第1～3学年・特別活動

目標・人権教育のねらい

- ・自分の思いを絵や言葉で表現するとともに、他者の思いや考えを共感的に受容することができる。

実施した内容

- ・生徒, 教職員, 地域の方を対象とした「絵てがみ教室」を定期的で開催した。

工夫した点

- ・「下手でいい。下手がいい」を合言葉として行うことで、絵を描くことに苦手意識を持っている人でも参加しやすいようにした。
- ・生徒と地域の方が隣り合うように席を配置することで、多様な他者と関わり交流できるようにした。
- ・制作した「絵てがみ」を校内や地域の施設に掲示し、より多くの方が鑑賞できるようにした。

他教科との
関連

- ・国語・美術

事業成果

【価値的・態度的側面】「ここの描き方いいですね」「言葉が素敵だね」など、相手の作品のよさを進んで見つけようとする態度が見られるようになった。

【技能的側面】幼児期の子供から高齢者まで様々な年齢の方が参加していたが、相手に応じたコミュニケーションをとることができるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県

学校名

広島県立向原高等学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

第1～3学年・特別活動

目標・人権教育のねらい

- ・ 高齢者の実態や状況を踏まえ、必要な情報を適切に伝えることができる。

実施した内容

- ・ 定期的にスマホ教室を開催し、地域の高齢者にスマートフォンの使い方を教える。

工夫した点

- ・ スマートフォンの使い方が分からなくて困っている高齢者が多いという地域の課題の解決に向け、生徒が自分たちでできることを考え企画した。
- ・ 開催場所を駅の待合スペースにし、開催日を掲示することで、誰でも気軽に参加できるようにした。

他教科との
関連

- ・ 国語 ・ 総合的な探究の時間

事業成果

- 【価値的・態度的側面】相手が困っていることは何か、どう伝えたら分かりやすいかなど、相手の立場に立って物事を考え、対応しようとするようになった。
- 【技能的側面】聞かれたことに対して、実際に操作して示したり、メモを渡したりするなど、相手に応じた対応ができるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県

学校名

広島県立向原高等学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

第1～3学年・特別活動

目標・人権教育のねらい

- ・アイヌ語・アイヌ文化を事例として、文化の多様性について理解することができる。

実施した内容

- ・アイヌ語・アイヌ文化発信者として活躍している講師を招聘し、「文化の多様性を知ろう～アイヌ語・アイヌ文化を事例として～」というテーマで講演会を実施した。

工夫した点

- ・アイヌ語で話したりアイヌの遊びを行ったりするなど、参加体験型の活動を取り入れた。
- ・講演会后、生徒と交流する時間を設定し、アイヌに関心をもつ生徒が直接講師と話ができるようにした。

他教科との
関連

- ・現代社会

事業成果

- 【知識的側面】アイヌの文化をはじめとし、世界には様々な文化があることを理解することができた生徒の割合が68.4%から94.6%に増加した。
- 【価値的・態度的側面】文化の多様性を尊重することが大切だと思える生徒の割合が82.5%から92.9%に増加した。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県

学校名

広島県立向原高等学校

人権課題

H I V感染者等

対象学年・
取り扱った教科等

第1学年・保健体育（保健）

目標・人権教育のねらい

- ・ 性感染症やHIV感染症について正しい理解を深めるとともに、感染症の予防について個人の取組と社会的対策について調べ、まとめることができる。

実施した内容

- ・ 性感染症や感性経路について理解する。
- ・ エイズやHIVの感染経路について理解する。
- ・ 性感染症やHIV感染の予防方法について、個人で取り組めることを考える。
- ・ 性感染症やHIV感染の予防方法について、社会的な対策について調べ、まとめる。

工夫した点

- ・ 一人一台端末を活用し、社会的な対策をインターネットを使って調べることにより、より多くの対策についての知識を共有できるようにした。
- ・ 世界エイズデーのポスターを掲示したり、エイズに関する図書の展示コーナーを設置したりして、生徒の関心を高めるようにした。

他教科との
関連

- ・ 現代社会

事業成果

- 【知識的側面】 性感染症やHIV感染症の原因やその予防方法について理解することができた生徒の割合が77.8%から100%に増加した。
- 【価値的・態度的側面】 感染症について正しい知識に基づき、自分ができることを考えて行動しようと思う生徒の割合が94.4%から100%に増加した。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県

学校名

広島県立向原高等学校

人権課題

ハンセン病患者等,
その他（日本国憲法の理解）対象学年・
取り扱った教科等

第2学年・公民（政治・経済）

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病問題を事例として、日本国憲法における人権保障の考え方とその意義を理解するとともに、ハンセン病問題が現代でも十分解決されていない要因を考察し、まとめることができる。

実施した内容

- ・ハンセン病について知る。
- ・「らい予防法」「令和元年7月12日内閣総理大臣談話」等の資料から、ハンセン病に関する国の政策や国の考えを読み取る。
- ・ハンセン病問題を事例として、日本国憲法の役割についてまとめる。

工夫した点

- ・事前に国立ハンセン病資料館とオンラインでつなぎ、「ハンセン病問題から学ぶこと」というテーマで教職員研修を実施し、授業実践に生かした。
- ・映画「あん」を事前に視聴し、生徒が「ハンセン病問題」を今なお続く身近な問題としてとらえることができるようにした。

他教科との
関連

- ・現代社会

事業成果

- 【知識的側面】ハンセン病に関する歴史や現状について理解した生徒の割合が50.9%から100%に増加した。日本国憲法の基本的人権の考え方について理解することができた生徒の割合が91.8%から100%に増加した。
- 【価値的・態度的側面】偏見や差別のない社会の実現のために必要なことを考えていこうとする生徒の割合が93.0%から95.9%に増加した。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県

学校名

広島県立向原高等学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

第1～3学年・特別活動

目標・人権教育のねらい

- ・インターネットによる人権侵害の現状と課題について理解し、情報社会において責任ある行動をとろうとする意欲や態度を身に付けることができる。

実施した内容

- ・外部講師を招聘し、「インターネットとわたしたちとのかかわり合い」というテーマで講演会を開催した。

工夫した点

- ・インターネットによる誹謗中傷の被害を実際に受けた経験をもつ方を講師とすることで、自らの体験を基にインターネットとの接し方やメディアリテラシーの大切さをお話しいたどくことができ、生徒が身近な問題としてとらえることができた。

他教科との
関連

- ・現代社会 ・政治経済 ・情報

事業成果

【知識的側面】情報の収集・発信に必要となる情報モラルについて理解した生徒の割合が81.7%から100%に増加した。

【価値的・態度的側面】情報を収集・発信するときは、社会にもたらす影響を考えて行おうとする生徒の割合が81.7%から100%に増加した。

【技能的側面】情報収集するときは、情報の真偽を見極め、必要な情報を活用することができるという回答した生徒の割合が88.3%から100%に増加した。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県

学校名

広島県立向原高等学校

人権課題

性的指向, 性自認

対象学年・
取り扱った教科等

第1～3学年・特別活動

目標・人権教育のねらい

・性的指向・性自認の考え方について理解を深めるとともに、誰もが自分らしく生きることのできる社会の実現に必要なことについて考えることができる。

実施した内容

・性的マイノリティの当事者である講師を招聘し、「性の多様性について～自分らしく生きるということ～」をテーマとした講演会を開催した。

工夫した点

・講演会後は、生徒が個別に講師の方に相談できる時間を設定した。

他教科との
関連

・保健体育

事業成果

【知識的側面】性の多様性に気付き、自分らしく生きる・本音で生きることの大切さを学ぶことができた。

【価値的・態度的側面】自分のまわりにも様々な考えの人がいて、悩み苦しんでいるかもしれないことに気付き、相談してもらえる存在になりたいと考える生徒もいた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県

学校名

広島県立向原高等学校

人権課題

北朝鮮当局による拉致問題等

対象学年・
取り扱った教科等

第2学年・公民（政治・経済）

目標・人権教育のねらい

- ・北朝鮮当局による拉致問題等は、日本の主権及び国民の生命と安全に関わる重大な問題であり、国際社会が協調してこの問題を解決していく必要があることを理解することができる。

実施した内容

- ・領土問題等、国際社会が抱える問題について学習した。
- ・映画「めぐみへの誓い」を視聴し、北朝鮮当局による拉致問題について学習した。
- ・国際社会において日本政府の果たす役割について考えた。

工夫した点

- ・令和4年度拉致問題に関する教員等研修に参加し、拉致被害者の家族や帰国拉致被害者の講話の内容を踏まえて指導した。

他教科との
関連

- ・地理歴史（地理総合） ・公民（現代社会）

事業成果

- 【知識的側面】北朝鮮当局による拉致問題は、国際社会が協調して解決していく必要があることを理解することができた。
- 【価値的・態度的側面】拉致被害者やその家族、拉致問題の解決に向け支援している人々の思いに触れ、拉致問題の解決に向け必要なことを考えようとした。